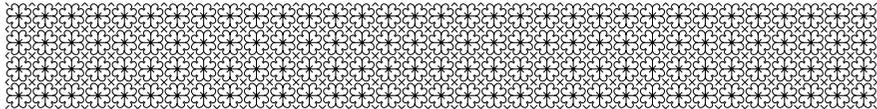


## 扉のことば

# 若者と貧困・就活・仕事



二〇歳代の若者の非正規雇用率が五割を超え、国民多数の安定的雇用・安定的人生コースは、もはや過去のものとなってしまった。大学中退者数が高校中退者数を上回るという就職以前の問題も深刻な状況にある。子ども・若者の育つ家庭自体も危機的な状況が広がり、貧困や親の精神疾患などが子ども・若者の育ちに大きな影響を与えている。そのような状況でも、子ども・若者は正規雇用実現による安定的人生コース獲得を目指す競争へ、参加していくしかないのだろうか。教師は導いていくしかないのだろうか。大学では就職指導を優先する動きが広がり、講義を欠席する学生が増加し、教育活動に大きな影響を与えている。新学習指導要領では、キャリア教育が進路指導に代わって、領域を横断した重要指導事項として位置づけられ、過酷な競争のなかに主体的に適応していく子ども・若者の育成が徹底されるようとしている。このような状況にありながら、日本型キャリア教育への批判的考察や国際比較による検討の場はほとんどつくられてきていない。

本特集では、若者をめぐる状況と国内外の若者支援政策の動向の把握、三・一―後の社会のあり方、各地で展開されている日本型キャリア教育の枠組みを超えた、子ども・若者の現実と真摯に向き合う、柔軟で創造的な若者支援実践（対抗的キャリア教育）を提示することを試みてみた。多くの教師、若者支援関係者が本特集を読み、若者支援の新たな実践・ネットワークの創造、若者政策の考察がすすむことを期待したい。